

事業計画書

事業名	『ママが働く』ことについて考えよう Vol.2
実施場所	沼津御用邸：第一学問所（講座）、第二学問所（託児）
実施予定期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日（詳細未定）

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
	<p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>子育てのために休職、あるいは一旦離職した母親を対象に、復職や再就職に向けた『『ママが働く』ことについて考えよう vol.2』を開催する（託児付）。</p> <p>H29年度に開催する第1弾では、講座の申込開始わずか3日で定員20名が満席に達し、急きょ増席したほどで、このテーマにおける地域のニーズの高さがうかがえる。第1弾では、再就職復職に向けた悩みや不安を参加者同士でシェアし、現在復職している先輩ママからそのアドバイスを得ることをメインとしたが、第2弾では、より具体的に、育休中あるいは再就職前に準備すべきことにフォーカスし、本人の精神面、家庭を取り巻く環境の整備面など、多角的に復職・再就職に向けて具体的に準備を促す内容とする。</p> <p>雇用者側の意見も取り入れるため、育休復帰の環境を積極的に整えている女性に働きやすい仕組みづくりをされている地元企業に協力を要請予定。また復職・再就職した後も、母ならではの悩みや問題点は続出するものであり、将来的にワーキングマザー同士の情報交換が続くよう、講座のあとにランチ交流会を付帯し、参加者同士のネットワークづくりを促進する。</p>

◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

日々の子育てに追われ、復職・再就職に向けた不安は常に漠然と抱えたまま、一步を踏み出せない母親が多い。講座を通して、具体的なソリューションを自ら考え、また情報収集をする、環境を整えるなどの具体的な行動を促すため、講座の前後でどれくらい不安が払しょくされたか、そして具体的に何をすべきと理解したかを講座後のアンケートで評価・確認する。

漠然とした不安が、正しい情報と講座内で自ら考えるという作業によって払しょくされ、講座後帰宅してから、復職・再就職に向けて、最初の一步は何をすべきなのか、そして、もういちど社会にでるその日に向けて、ほかに何を準備していったらいいのか、参加者の一人一人がそれぞれの環境に照らし合わせ、具体的に自覚できることが、本講座のゴールである。

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。 「女性活躍」が推進され母親の社会参加が話題に上る昨今、復職を含め社会参加を試みようとしても、家事育児の合間の情報収集は時に困難であり、不安を感じている母親も多い。 そこで地域の中心的な母親支援団体である当団体が「働く」ことをテーマにとりあげ、事業を開催するとともに、当団体が所有するウェブサイトを通じて広く発信することで、母親たちの不安を取り除き、地域の母親たちが一歩、地域社会へ踏み出す一助となりたい。</p>
<p>発展性</p>	<p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 母親団体の強みで、実際に様々な働き方をしている先輩ママたちとのネットワークがあるため、今後も多様な講座を展開可能であり、またウェブサイトを通じて情報発信も行っているため、講座後も、必要な情報を必要な層に広く届けることができる。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。 今回は雇用者側の意見も取り入れるため、育休復帰の環境を積極的に整え、女性に働きやすい仕組みづくりを実践している地元企業(具体的には「沼津市男女共同参画推進事業所」の認定もうけている、マックスバリュー東海さん)に協力を要請予定である。地域で一歩リードしている会社の環境とはどのようなものか、またそれを受けて、我々母親サイドに準備できることは何かを講座を通して考えていく。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。 女性活躍は、今、国家的にも喫緊の課題である。しかし、とくに産後の女性にとってはその道は険しく、問題は山積している。母親目線で課題を投げかけ解決策を模索することが重要であり、企画運営が現役の母親層である当団体こそがこの事業に最適である。 広報費用や交流会費用のすべてを参加者負担にすれば、特に、一旦離職し現在働いていない母親層にとっては参加ハードルがあがり、必要な層に届けることができない。財政的な支援を受け、必要としている層に確実に参加機会を提供したい。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。 雇用者目線の、ワークライフバランスや女性活躍のための講座などは散見するが、当事者である母親層自体が発信母体となり、等身大の働く母親像を提示し、問題解決の糸口をさぐる講座は近隣に当団体以外見当たらない。 同じ目線だからこそ共感されやすい内容、そして、身近なロールモデルだからこそ、参加者の行動変容、意識変容を促しやすい、という点が当事業の特徴である。</p>
<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。 4年前の当団体の前身(任意団体ママとね)の時から、様々な形で「ママが働く」ことについて考える講座を継続して提供しているため、母親層をとりまく地域の情報や講座主催のノウハウが蓄積されており、今後も継続する。また、ウェブサイトを通して、近隣の関連分野の講座やイベントも継続して情報提供していく。すなわち、主催事業と情報提供の両面から、働くことを模索する母親への支援を継続する。</p>

◎特に高い公益性を有することの説明

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。